

# ひざし

2020 3

No. 253



第15回 ジャガリンピック®の様子

# じゃがいも創作料理の熱き戦い 第15回じゃがリンピック®



白滝じゃが生産部会加工班は、2月15日に遠軽町白滝国際交流センター・コピエにて、第15回じゃがリンピックを開催致しました。

生産組合加工班の大久保真由美班長の開会挨拶から始まり、来賓からの祝辞を頂いた後、今大会の参加者から出品した創作じゃがいも料理の説明が行われました。

審査基準である「美味しさ」「手軽さ」「作ってみたいと思う料理」の3項目のもと、審査員9名が厳正な審査を行います。今年は12品が出品され、火を使



工夫を凝らしたじゃがいも料理が沢山ありました

わない料理など参加者が工夫を凝らした創作じゃがいも料理が並びました。審査講評で「じゃがいもの食感の良さ、調理時間の短さだけではなく、お刺身とじゃがいもという組み合わせの斬新さから、審査員一同作ってみたいと思いました。」と審査員から高い評価を得た、湧別町の笹井千会さん作「じゃがいもとお刺身のぬた」が金メダルを受賞致しました。

また、ジャガイモに関するクイズ大会が行われ、盛会のうちに終了致しました。

なお、今回のメダル受賞者は以下の通りとなっております。



金メダルに輝いた「じゃがいもとお刺身のぬた」

- 金メダル** ..... 笹井 千会さん
- 銀メダル** ..... 高橋 玲子さん
- 銅メダル** ..... 杉山 智恵さん  
おつまみじゃがコロボール 東郷 恵里さん



専用の機械を使ってビニールハウス内に育苗マットを敷きつめていく梶原さん

今年も農作業事故にご留意されるところに、豊穣の秋を迎えられることをご祈念申し上げます。

今年も農作業事故にご留意されるところに、豊穣の秋を迎えられることをご祈念申し上げます。

今年も農作業事故にご留意されるところに、豊穣の秋を迎えられることをご祈念申し上げます。

今年も農作業事故にご留意されるところに、豊穣の秋を迎えられることをご祈念申し上げます。

今年も農作業事故にご留意されるところに、豊穣の秋を迎えられることをご祈念申し上げます。

今年も農作業事故にご留意されるところに、豊穣の秋を迎えられることをご祈念申し上げます。

未だ雪の残る2月中旬、上湧別地区の玉葱栽培農家では、播種作業が一斉に始まりました。

玉葱は例年2月中旬から極早生種、早生種、中晩生種の順番で育苗マットに種をまき、ビニールハウス内で育苗マットを敷き詰めていく「床伏せ」と呼ばれる作業を行います。その後、定期的な灌水と毎日の温度管

理を行い、4月下旬から始まる苗の移植に向け、大切に育てられています。

今年はおおよそ11haを移植する予定。梶原さんは「昨年は移植後の高温と干ばつによる水不足が心配でしたが、収量が平年を上回る豊作の年でした。今年も農作業事故にご留意されるところに、豊穣の秋を迎えられることをご祈念申し上げます。

# 豊穣の秋を願い 今年も玉葱の播種作業が始まりました

5月号で  
**家の光** は創刊95周年

食と農  
暮らし  
協同  
家族

2特集 水島エンフ流  
料理の  
新常識

いま“知りたい”暮らしの旬のテーマを取り上げます

創刊95周年記念

今年の5・9・12・1月号は、別冊付録2冊付き!

年6回は別冊付録付き

お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ

JAグループ 家の光協会  
〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11  
TEL.03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net>

- ◆ 今月の主な記事 ◆
- ◎ 第15回じゃがリンピック……………2
- ◎ 今年も玉葱の播種作業が始まりました……………3
- ◎ JAえんゆう女性部 第21回通常総会開催……………3
- ◎ オホーツクJA女性部大会……………4
- ◎ JAグループ通信……………5
- ◎ 普及センターより……………6
- ◎ ストップ! 農作業事故……………7
- ◎ 農林年金の特例一時金をお支払いいたします……………7
- ◎ 持続可能なJAの事業運営を考える……………8
- ◎ 理事会のあらまし……………8
- ◎ 労働保険・傷害共済の年度更新取りまとめについて……………12
- ◎ クロスワードパズル……………13
- ◎ 読者の声……………13
- ◎ 春の農事部懇談会開催について……………14
- ◎ いもたま作造くん……………14

# JAえんゆう女性部 第21回通常総会開催



JAえんゆう女性部は、2月10日に第21回通常総会をJA本所大会議室で部員48名が出席し、各関係機関

から来賓各位を迎えて開催しました。冒頭、開会のあいさつで北村広子副部長は、昨年度の部員各位の女性部活動に対するご理解

## 開会にあたりJA女性部綱領を朗唱する女性部員

とご協力に感謝の言葉を述べ、今年度も引き続き女性部活動への積極的な参加・参画をお願いしました。

来賓からの祝辞のあと、議長に北兵村三区の中川麻衣さん、旭の名取朋代さんの2名が選出され議事進行を行い、平成31年度事業報告ならびに収支決算、令和2年度事業計画案ならびに収支予算案等全提出議案が滞りなく審議され、満場一致で承認されました。最後に新JA女性の歌を出席者全員で唄い、盛会のうちに閉会となりました。

## オホーツクJA女性部大会

オホーツクJA女性協議会は2月4日から5日にかけて、第26回オホーツクJA女性部研修大会・家の光大会を網走市の網走湖荘にて開催、網走管内一円から267名、JAえんゆう女性部からも部員20名が参加致しました。

本大会では前回大会の申し合わせ事項と3ヶ年計画経過報告があり、地域や世代の垣根を超えた交流、家族の健康管理、JA運営の積極的な参加・参画などを進めていくことを改めて確認しました。

続いて特別公演が行われ、チェアスキー選手として活躍されている狩野亮選手の母、狩野照美氏より「25年の時を経てく多くの出会いに育てられてく」をテーマに、自身の子育ての他、多くの人々の出会いを通して得た経験を話して下さりました。特別講演後、道女性協主催の研修会報告および他JA女性部の組織活動体験・家の光記事活用体験の発表が行われ、大会後の懇親会では各JA女性部持ち回りによるアトラクションが催されるなど、他農協の女性部員の方々と交流を深めて参りました。

2日目の研修は、JAオホーツク網走女性部部員を講師に、クラフトテープでカゴを作りました。部員たちは最初クラフトテープを編み込むのに苦労しましたが、コツをつかむと手際よく、色彩豊かなカゴが出来上がりました。

また、今年も各女性部から家の光の記事を活用した作品や手作り加工作品も展示され、有意義なうちに2日間の大会を終えました。



コツをつかむとあっという間にカゴが完成しました



講演される狩野氏



JAグループ北海道は北海道コンサドーレ札幌の選手やサポーターに、農業と食について考えてもらうことを目的として、「コンサ・土・農園（コンサ・ド・ファーム）」を開園しています。収穫した「トウモロコシ」や「馬鈴しょ」はコンサドーレのホームゲーム時にチャリティー販売を行い、その収益によりサッカーボールを購入し、道内の児童養護施設に寄贈しています。

今年度の募金額は174,916円となり、道内24か所の児童養護施設に48個のサッカーボールを贈呈することができました。この取り組みは平成21年より実施しており、サッカーボールの累計贈呈数は今年度で約500個となっております。

1月30日に道内の児童養護施設を代表して札幌市内の養護園で贈呈式を行い、JAグループ北海道より、JA北海道中央会の飛田会長、北海道コンサドーレ札幌より河合C.R.Cとドーレくんがサッカーボールを贈呈しました。



## JA北海道信連



1月22日、旭川市内で「JAバンク北海道農業経営セミナー」を開催しました。北海道農業の未来に向けた農業経営者の「経営力向上」をテーマに講演が行われ、全道各地の農業経営者などが参加されました。講演では、農福連携・農福一体の取り組みや、地域ぐるみのブランド戦略等の事例について各講演者から説明がありました。講演後、交流会も催し、農業経営者間の情報交換及び連携強化を図りました。



## JA共済連北海道



JA共済では、『「こども共済 資料請求キャンペーン」を実施しております。JA共済ホームページから「こども共済」の資料をご請求いただいた方に、『JA共済オリジナル アンパンマンはらまき』をプレゼントしております。キャンペーンは令和2年3月27日(金)までで、先着60,000名様限定となっております。この機会にJA共済のホームページにアクセスいただけますようお待ちしております！

○JA共済HPアドレス  
<https://www.ja-kyosai.or.jp/>



## ホクレン



冬至シーズンの道産かぼちゃ供給に向けてホクレンが商品化した銘柄「りょうおもい」を使った煮付けとあんこを組み合わせた総菜「冬至かぼちゃ」をセイコーマートが新規開発し、昨年12月に道内と茨城県に展開する全店で冬至前後の期間限定での試験販売をしました。「りょうおもい」は、ホクレンが品種選定、貯蔵技術の研究を進め、生産者・消費者双方の「思い」として命名し、ホクホク感と甘味のバランスのとれた、おいしいかぼちゃです。



## JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。



JAグループ北海道の連合会・中央会の活動内容を紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。



# 畑作

本年の積雪は、一月までは、少なく経過したため、土壌凍結が深く入っています（五十センチ程度）。しかし、その後の低気圧による大雪により、積雪は多い状況となっておりますので、春耕期に向け適切な準備で臨んで下さい。

## 一 秋まき小麦について

(1) 越冬前の生育  
令和二年産のは種作業は四日程度早くスタートしましたが、九月中下旬の断続的な降雨で、は種終わりは平年並みとなりました。

は種後は、気温が高く推移し好天に恵まれたため、越冬前の葉数および茎数は、ほ場差が大きいものの、概ね平年より多い状況で越冬しています。

## (2) 起生期に向けての管理

土壌や作物体の凍結の影響については、今の段階ではわかりませんが、起生期の茎数を確認して適切な追肥を実施して下さい。また、次項でお伝えする融雪促進も徹底して起生期以降の生育をすすみましょう。

## (3) なまぐさ黒穂病の新知見

令和元年度の普及推進事項として、次の知見が明らかになりました。

一部を抜粋していますので、詳しくは道総研のホームページ等をご覧下さい。

- ① 北海道で発生しているなまぐさ黒穂病菌は国内未発生であった。
- ② 土壌表面にある厚膜胞子が植物体に感染しており、胞子の発芽は十月下旬以降に始まり、主に積雪下で感染していると考えられる。

## 二 春耕期作業に向けて

土壌凍結が深くなると、透水性・物理性の改善や土壌窒素の溶脱が低減し作物が利用しやすくなる等の効果が期待されます。しかし、留意する点として土壌凍結が深いと融雪後の地温の上昇と土壌の乾きは遅れます。

このため、融雪を促進し、ほ場から速やかに雪をなくし地温の上昇を促し、凍結を早めに除去しましょう。生育の促進や、早期のは種が必要なほ場では早めに融雪促進を行います（写真一）

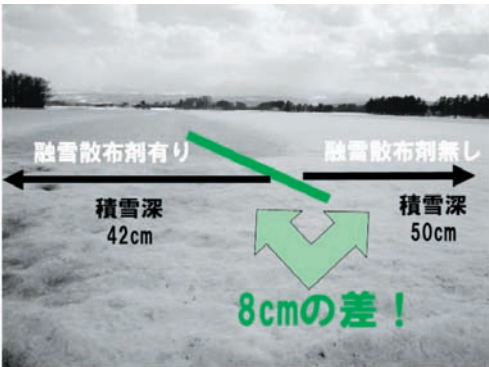


写真1 融雪剤の効果

# 畜産

『家畜農作業安全を向上させよう！』  
「対策トレーニング」で農作業安全に取り組もう！

管内の農作業事故件数は、農家戸数の減少にもかかわらず増加しています。ケガをした方の多くは、再びケガをしない様に、本人や周囲のアイデアを取り込むなど作業体系を見直しています。

事前に危険を取り除き、安全な作業を行う方法の一つとして「対策トレーニング」があります（図一）。トレーニングを実施することで、より安全性が向上します。家族や従業員と、是非取り組んでください。

	問題解決の4段階	対策トレーニングの4段階
第1段階	事実をつかむ	「ヒヤリ・ハットや危ないことをすべて洗い出す」 みんなでイラストや写真を見ながら自由に発言します。この時、他人への非難は避け、発言に便乗したり遠慮します。ヘルパー等、農場外の人の意見も参考にします。発言は、「〇〇して△△になるというようになります」
第2段階	問題点を探る	「これが原因」 発見した危険要因について全員で洗い出して、これが問題点だと思われるものに〇印を付けます。さらに、重要度の高いものから「印」や「番号」を付けます
第3段階	対策を立てる	「あなたならどうする」 重要度の高い問題を解決するにはどうしたらよいか全員で考え、具体的な対策を立てます
第4段階	行動計画を決める	「私たちはこうする」 立てた対策のうち、実施すべき重点項目に「印」や「番号」を付け、いつ、誰が実施するか決めます。実施出来たらマルなどを付けます

図1 安全な作業を行うための「対策トレーニング」

二 当たり前に行っていた作業を見つめ直そう！  
事故を防ぐための対策トレーニングは、日常で何気なく行っている作業が「本当に安全な作業か」という観点から考えることがポイントです。



事故を受けた後の作業見直し例(管内)



従業員と話し合ってきた「どつく牛」リスト

オホーツク地区農作業安全運動推進本部より、本内容が盛り込まれた「家畜農作業事故発生防止リーフレット」が配布される予定です。本内容とともに、是非ご利用ください。



ストップ！ 農作業事故

人間工学専門家 ● 石川文武

## 農用運搬車の安全問題

農村地域での生産物や資材の運搬手段はかつて歩行型トラクターに連結されたトレーラーが大半でした。最近ではトラックが主となり、圃（ほ）場内、ハウス内、斜面、狭隘（きょうあい）道路などでは、農用運搬車（以下「運搬車」）が利用されるようになっていきます。台数は減りつつありますが、年間に25〜45人が事故で死亡しています。無傷、軽傷事故を含めると転倒・転落が50%弱、衝突が20%弱といわれています（革新セ調べ）。荷台から振り落とされる事故もあります。



転倒・転落事故の発生は道路が過半であり、下り坂が4割程度となっています。主因は、脇見、速度超過、制動力不足が多いようです。脇見については機械面からのサポートは難しいですが、他の二つについては制動力強化、積載時を含めた低重心化、ROPS装着とシートベルトの改善が必要と考えられます。ROPS装着は有効な手段ですが、本体価格と比べてROPS部分のコストが高くなり、また、運搬車本体の構造強度見直しも必要となり、普及には時間がかかりそうです。

【事例1】80代の男性がダンプ式の乗用型運搬車で堆肥を微速で前進させながら圃場に散布していた。散布し終わったときにブレーキとアクセルを踏み間違えて暴走させ、前方のあぜを乗り越え、崖下に転落し、重傷を負った。

対策……後方に注意を集中し過ぎてペダルを踏み間違えたものです。暴走し始めたときにパニックになり冷静に対応ができませんでした。高齢も一因だと考えられます。

【事例2】牧草を積んで農道を走行していた。前日の雨で路面がぬかるんでおり、サイドスリップして路肩を踏み外した。荷台に差し棒を挟んで積載量をオーバーしていたことも原因と考えられる。

対策……積載量を守り、路面の状況に合わせた速度で移動しましょう。

# 農林年金の特例一時金をお支払いいたします

令和2年4月1日の農林年金改正法の施行日以降、対象者全員に特例一時金をお支払いして農林年金のお支払いは終了します。

私ももらえるのかも



でも

**農林年金に住所登録がないとお届けできません**  
※対象者には農林年金から特例一時金のお支払いのご案内をお送りいたします。

### 対象者

農協、漁協、森林組合などの農林漁業団体にお勤めされたことのある方

（※農業共済組合、厚生連病院、土地改良区、農業会議、たばこ耕作組合、漁船保険組合、農事組合法人など）

／特にこんな方は登録されていない可能性があります／

- 1 平成8年12月以前に団体を退職している。<sup>※1</sup>
- 2 日本年金機構「ねんきん定期便」に農林年金期間が含まれていない。<sup>※2</sup>
- 3 すでに62歳を超えているが農林年金から何の連絡もない。<sup>※3</sup>
- 4 62歳はまだ先のことだが、①②に当てはまる。

※1 特に退職時と「苗字(姓)」が変わっている場合、住基ネットで確認できません。  
※2 農林年金期間は、ねんきん定期便の「一般厚生年金」期間に含まれています。  
※3 平成31年4月1日時点で62歳を超えている。

お心当たりがある方、こちらまでご連絡をお願いします。

連絡窓口 ● 農林年金 管理徴収課 **03-6811-0550**

農林漁業団体職員共済組合（農林年金） <https://www.norin-nenkin.or.jp/>





信用事業のあり方をめぐり、道内108JAでは2019年4月までに①単独②合併③信用事業譲渡（代理店化）の3つの選択肢に基づく検討が行われた。農協改革集中推進期間が終了する一方、マイナス金利の長期化に伴い、信用事業における奨励金水準の段階的な引き下げが始まる。JAをめぐり環境の変化を踏まえ、今後も持続可能な経営基盤をどう維持していくのか。北海道大学・小林国之准教授の進行で、「持続可能なJAの事業運営」について道内JA関係者にご議論いただいた。

【出席者】

- 小林 国之  
北海道大学大学院農学研究院准教授
- 柴田 倫宏  
JA北海道中央会専務理事
- 宮本 英靖  
JAピンネ代表理事組合長
- 佐藤 正昭  
JAこしみず代表理事組合長

出典：『北海協同組合通信2020新春特集号』  
「持続可能なJAの事業運営」北海道協同組合通信社

信用事業は全道で約35億円の減少

**小林** 今日のテーマは「持続可能なJAの事業運営」。農協改革については、JAグループの自己改革に

一定の評価も出てきているが、経営の視点から見ると、これからかなりシビアな状況が予想される。特に20年度から農林中金の奨励金引き下げが始まり、金融事業を中心とした都府県のJAだけではなく、農業地帯の北海道のJAにとっても非常に大きな課題になっている。まずは農協改革や金融環境の変化を踏まえた農協経営のあり方として、全道の方向性と各JAの取り組みなどをうかがいたい。最初に中央会が19年4月に取りまとめた各JAのあり方検討の状況を。

**柴田** 5年間の農協改革集中推進期間が19年5月に終了し、ひとつの区切りがつけられたが、この間にいろいろな改革を求められてきた。同時に、金融情勢もマイナス金利が長期化し、日本の経済システムが大きく変わり、そこに農協も飲み込まれつつある。持続可能な事業運営に向けて全道108農協の皆さんはどう考えていくのかということで、農林中金の奨励金引き下げを前提にそれぞれシミュレーションしてもらい、

単独、合併、信用事業譲渡の3つの選択肢も示しながら、19年4月までに各農協で再点検していただいた経過にある。

その結果、108農協のうち、コスト削減や販売強化などに取り組みながら、単独の総合事業体としてやっていくと回答したのは94農協で、このほか事業基盤強化のため合併を検討したいと回答したのは11農協だった。このうち8農協はすでに合併検討委員会などの枠組みがあるが、枠組みなしのところも3農協含まれている。また、あり方検討とは事情が異なるが、日高の3農協が信用事業譲渡を選択している。

なお、検討に当たっては、農林中金やJA道信連からの還元率を一律で設定し、各農協の中期計画などをもとに2023年度の収支見通しをシミュレーションしていただいた。日高3農協を除く105農協の部門別事業利益を見ると、17年度と比較して信用事業は全道で約35億円のマイナスが見込まれるほか、共済事業も長期共済保有高の減少により収益率が下がるため約11億円減、購買事業も約12億円減。このほか、販売事業利益は微増の2億円、その他が9億円増で、事業総利益全体では約47億円のマイナスとなっている。これ





小林 国之  
(こばやし・くにゆき)

1975年北海道生まれ。北海道大学大学院農学研究科を修了後、助教を経て2016年から現職。地域連携経済学研究室。主著は「ホクレン販売事業にみる経済連の組織機構と機能」「総合農協のレーゾンデートル」「北海道から農協改革を問う」など。

に対し、事業管理費は12億円増えるため、経常利益は71億円のマイナス。17年度と比較して35%ほど厳しくなるという結果が出ている。

**宮本** 当農協でも影響は大きく、シミュレーションの結果、22年には現行と比較すると信連からの奨励金で約5000万円ほど落ちる。しかし、今までも農協本来の姿は、組合員の結集があつて、われわれが農産物をしっかりと集荷して有利販売することが第一で、この農産物の販売が金融・共済、経済事業につながっていくというイメージです。とやってきている。これからもしっかりと組合員の理解をいたさながら、農産物の集荷率を高め、さらに系統が有利販売を続けていけば、何とか乗り切っていけるだろうと考えている。

ないか。

**宮本** 確かに貯貸率は7%で預金の割合が高く、その分今回の奨励金引き下げは非常にきつい。ただ販売面においては、おかげさまで米の集荷率が93%と高い。これからも農協に対する組合員の理解をつないでいさながら、農協離れを食い止めることによつて、信用事業の減収分は全体でカバーできるとするのが基本的な考え方だ。

2006年に営農センターを立ち上げ、営農部と農産部をひとつの組織に入れると同時に、営農部の中に営農渉外課を設けた。ここのスタッフは4人で、仕事は農家回りが専属。中身は生産資材の推進、営農相談、農作業の人材派遣とさまざまだが、それによつて農協への結集と集荷率の向上が図られ、その延長で金融、共済事業に結びついていけばいいと考えている。実際に渉外課を始めてから販売高は2億5000万円ほど

伸びてきた。こうした取り組みを進めていくことがこれからの農協経営にとって重要だと考えている。

**小林** ピンネの営農渉外課は、全国的に見るとTACに近い仕組みだと思う。組合員との関係性や若い世代の変化は。

**宮本** 営農渉外課の組合員訪問は毎日のことなので、特に何も用意せずに行かなくてはならないが、その中で、基本的に農協は皆さんがつくって皆さんが利用する組織であり、いとこ取りでは大変なことになる、皆さんが結集することが大切だという指導は欠かさないようにしている。併せて青年部組織にも渉外課の担当者などが顔を出し、青年部の中から次の農協の経営者が出てくるということも伝えてきており、それによつて若い世代の意識も少しずつ変わってきた気がする。また、以前は渉外課に女性スタッフがあり、そのため農家のお母さんや娘さんなどの相談

ごとも聞くことができた。ここは職員配置を工夫しながら将来に向けて再設置を考えている。

**小林** 全国的に見ても農家の女性の声をきちんとくみ上げるといふのは重要な取り組みであり、北海道はまだ足りない部分があるが、農協への結集力という面からも、経営主はもちろん、女性の声を聞くことでさらに広がりが出てくると思う。このほか、組合員との対話という意味では、ピンネでは全職員が農事組合組織などに出向く一斉推進にも取り組んでいる。

**宮本** それは渉外課とはまた別の「相談機能」という組織体で、121人の職員を5人平均で21班に分け、管内全地区に割り振り、春は米の契約や水田の作付け、秋は集荷体制の相談などに出向いているもの。農協からの押し付けではなく、組合員からも頼りにされており、逆に「来てくれ」と言われて行くこともある。



柴田 倫宏  
(しばた・みちひろ)

1966年生まれ、北海道大学農学部卒。88年北農中央会入会、90年函館支所、95年帯広支所、99年農業対策部畑作農業課、2006年札幌支所、09年基本農政対策室、12年農業対策部畑作農業課長、13年同酪農畜産課長、16年東京事務所長、17年常務理事、19年9月から現職。



宮本 英靖  
(みやもと・ひでやす)

1953年生まれ。拓殖大学北海道短期大学卒。99年にJAピンネ監事、2002年代表理事専務を経て、08年から現職。17年からは空知農協連副会長、空知管内農協組合長会副会長、ホクレン理事を務める。道農協米対策本部委員。

佐藤 問題は、われわれは金融農協ではなく、販売農協だということ。まずそこをしっかりとやっていかないといけない。農協は金融・共済で成り立っていると見られがちで、もちろん金融の利益もあるが、基本は営農指導であり、それによって農家の皆さんの生産力を上げていくための組織。常にそこを真ん中に置いてやっていくことが大切だ。さりとて、金融・共済は農家組合員だけでなく地域住民からも頼りにされている。うちも准組合員が6割以上を占め、地域住民に支えられている部分がある。小清水には郵便局と信金もあるが、金融のシェアは農協が約7割。地域住民の生活を守るために必要な組織になっている。

の先はもつと減る可能性もある。しかし、そこは工夫次第だろう。当然これから金融事業は譲渡せずに行き渡らなければならない。ただ、営農指導の中身を細かく見ると、土地の売買から税金対策、農作業事故の対応、さらには冠婚葬祭や高齢者の悩みごとの相談など、相当幅広いことをやっている。これから金融・共済が厳しくなっていくとすれば、そこは組合員にきちんと説明し、営農指導はすべて無償という認識は、少しずつ変えてもらわなければならないだろう。そのためにも組合員に正確な情報を伝えていくことが大切。今は当たり前になっていくことも、実は当たり前ではないということも伝えることが大事だと思える。

小林 組合員の理解や教育という面で、小清水は地域の歴史を組合員に伝えるなど積極的に取り組んでいる。佐藤 そこを一生懸命やらないと自分一代でここまでできたような感覚になって、ひとりでも何でもできる。錯覚する人が出てきてしまう。先ほどの米の集荷の話があったが、うちの畑作3品が中心なので少し違うけれども、系統利用が当たり前という空気をつくっておくことは大切。生産部会などでも、ただ罰則規定を設けたのでは「ペナルティを払えばいいだろう」という話になるが、そうではなく、皆で決めたことは皆で守り、地域で守るという意識を持つてもらわなければ。それが寄り集まって農協への結集につながる。そのためには農協としても組合員が何を求めているのかを知り、いかにしてこちらを向いてもらうか、ということが一番大事になってくると思う。



佐藤 正昭  
(さとう・まさあき)

1948年生まれ。93年JAこしみず理事、02年から現職。08年からホクレン理事、11年からオホーツク農協組合長会会長、オホーツク農協連代表理事、JA道中央会理事、JA全農総代などを務める。

農政運動の重要性を再確認

小林 一連の農協改革の動きについて、実際に組合員の人たちはどれ

ぐらい危機意識を持っているのだろうか。例えば中央会の連合会化など、そこは問題だと思える。佐藤 多くの組合員にとっては人ごとだろう。しかし気にしている部分はあろうし、よく言えば、組合長や役員に任せておけば安心だと思ってくれているのかもしれない。それが人ごとではないと伝えるには、ひとつは組合員教育をやって、政治に興味を持ってもらう努力をすることだろう。小清水では5年ほど前に農民連盟が解散したが、そうなると組合員が勉強する場所もなくなってしまった。そのため新たに農政協議会をつくり勉強してもらっている。北海道の農業は交付金の割合が大きく、中央会を中心とした農政活動があつて初めて経営が成り立つ。決して自分ひとりの力で生活できているわけではない。そこはきちんと制度を含めて教えていかなければ。

ただ、今はいろいろなところから情報が入るし、農業団体と同じような活動をする組織も始めている。そうすると、われわれが国に要請してやると積み上げてきたものが、メールなどですぐ手に入る。それも言ってみれば情報のいいとこ取りで、農協も農連も関係ないという人が出てくることになる。これから先はそういうところにも注意を払っていかなければならない。

**小林** 中央会も9月から連合会となつたが、北海道のJAGグループを代表する組織として、これまで中央会が果たしてきた機能や役割、存在意義などを、末端の組合員にも見えるような形に変え、発信していく必要がある。

**柴田** 中央会も連合会になってスリム化しなければならぬし、やるべきことはきちんとやらなければならぬ。そういう思いで19年4月に第4次中期計画を立て、3つの基幹事業とともに、農政事業を重点事業として位置づけた。その中で特に農政運動については、かつてのガット・ウルグアイラウンドの時代は、外圧を利用して自ら勉強し、組織に結集するという、まさに協同組合運動の原点とも言うべき状況があったと思うが、WTOが空中分解して2

国間の経済連携に移ってきたところから、後の農協改革の影響などもあり、運動の機会が少なくなってきたのは事実。中央会が進むべき道は中期計画に示したが、組合員教育を含めた具体的な運動のあり方なども考えていく必要があるだろう。

**佐藤** 私が組合長になった当時はWTOがあり、よく全道の組合長の皆さんと一緒に運動に出た。国にも要請に行つたし、全国大会などにも参加した。しかし最近はそのような機会が減り、参加する組合長も少なくなっている。こういうものは自分で参加して経験することによって、組合員に対してしっかりと説明できるようになる。農政運動の中でもそれが今、非常に足りないところだと思う。

**柴田** 農業団体が大会や集会を開催すると、外からは「こぶしを挙げている」と見られてしまうかもしれないが、実際はそれにより組織内の結集が高まつたり、地元に戻つたときにより正確な情報を組合員に伝えられるという側面もある。そこをもう一度考え直さなければいけないのかもしれない。JA全中主催の大会も開かれなくなったが、ここ2年「全国フォーラム」という名前で開催しており、農政運動に対する危機意識の表れだと思う。

**佐藤** そこは形を変えてでもやらないとだめだ。農協改革の中でひとつよかつたのは、うちの組合員は中央会の役割を理解してくれている。ホクレンに対してはいろいろ言うが、「中央会は絶対に必要な組織」という理解が組合員にあつたこと。正直意外だったがすぐうれしかった。やはり農政活動をしっかりとやっていることが伝わっているのだと思う。非常に大事なことであり、ここを緩めてはいけない。

**柴田** 農協というのは経済事業体であると同時に運動体であり、手法を含めて運動体の部分をやや疎かにしてきたことが、今日の組合員の組織離れを招いている可能性もあり、そこは中央会の役割が大きい。しっかりとやらなければならない。

**小林** なかなか伝わりにくい部分であり、特に比較的若い世代は農政運動という言葉に距離を置きたがるところがあるが、北海道の場合、農政運動の成果として手にしてきたものは非常に大きい。しかし最近は何人が自由にやることを助長する仕組みになっていて、国が示す政策の方向に沿って「それにどう合わせるか」という手法が変わってきているように見えるが。

**柴田** 確かに、畑作物などは当時

の品目横断など北海道主導で仕組みをつくってきたが、米は全国の仕組みの中でどう北海道に合った運用にしていくかというのが、最近の動きになってきている。特に米政策の見直しが始まったここ数年、農政運動の中で農水省とも意見交換を重ねながら、北海道が求める具体的な仕組みを北海道提案型で強く誘導してきた部分がある。

**宮本** 具体的には、全国一律の米政策の中で、産地交付金について地域でフリーに配分できるような仕組みを要望し、道枠と地域枠というやり方に対応してもらつたのが大きなポイントだと思う。また米の作付面積に関しても、加工用米などのいわゆる水張り転作に地域で自由に取り組めるようになってきているが、これもわれわれが要請しながら、農水省と一緒に仕組みをつくってきたもの。ここはもう少し広げていきたいと思つている。

**小林** これからもそうした地道な農政運動の成果を地域農業の振興や農協事業に結びつけていくことが重要。ただ、本来はそれらがすべて一体となって展開してきたのが日本の農協の特質であり、今はそこが分断されてきているという課題もある。

つづく

# 理事会のあらまし

## 第1回理事会

(令和2年2月28日)

### ◇報告事項

1. 決算棚卸の結果について
2. 令和元年度 経営定期点検の実施結果について
3. 令和元年度 資産自己査定結果について
4. 組合員の異動について
5. その他

### ◇議案

1. 令和元年度 決算及び剰余金処分(案)について  
原案通り承認されました
2. 定款の一部改正について  
原案通り承認されました
3. 第21回通常総会日程及び提出議案について  
原案通り承認されました
4. 定款52条第9号に該当するクミカン貸越極度額の設定について  
原案通り承認されました
5. 令和2年度 理事に対するクミ

6. カン貸越極度額の設定について  
原案通り承認されました
7. 組合員に対する転貸資金の貸付について  
原案通り承認されました
8. 令和2年度 経営定期点検の実施計画について  
原案通り承認されました
9. 信用事業規程の一部改正について  
原案通り承認されました
10. 職員一斉組合員訪問(組合員との対話運動)について  
原案通り承認されました
11. 期末手当の支給について  
原案通り承認されました
12. 出資金の一部譲渡について  
原案通り承認されました



\*えんゆう労働保険事務組合からのお知らせ\*

(担当 共済課)

## 『労働保険・傷害共済の年度更新取りまとめについて』

日頃より労働保険業務に対し特段のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。  
令和2年度の取りまとめを下記の通り行いますので宜しくお願い申し上げます。

### (労災雇用保険)

- \* 2月中旬に加入申込書・賃金報告書を委託事業主様へ送付しております。
- 労災保険に新規加入・解除及び日額変更の申込をお願いします。
- 申込書は変更がない場合でも必ず提出願います。

**(新規加入・変更を4月1日より保険対象にする場合には、3月20日までに提出して下さい!!)**

- \* 賃金等の確定申告提出期限も、3月20日 提出先は、共済課まで
- \* 労働保険料及び事務組合手数料の納付は、8月31日です。

(事前に登録されていますクミカン・貯金より引き落とし致します。)

### 雇用労働者対象の労災保険に加入している委託事業主の皆さんへ!!

労働保険料算定基礎賃金等の報告書(組様式第4号)を押印して必ず提出して下さい。  
(当年度に雇用する予定が事情により雇用がなく賃金の支払がない場合でも0円で必ず報告)

### (JA傷害共済)

契約期間は1年ですが、加入者ごとに加入期日が異なります。

**新規加入・変更する場合には、3月20日までに提出してください。**

申込書の提出がない場合には、前年と同様の加入可能な内容で更新します。

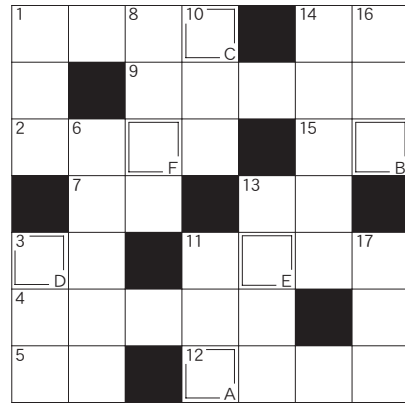
### 労働災害保険とJA傷害共済に加入してWの保障!!

ご存知のことと思いますが、農作業の機械化が進み、毎年度農作業中の事故が多数発生しています。  
**農業は、他の産業に比べて事故リスクが高い産業になっているのが現状です。**

万一の農作業事故に備えて労災保険・傷害共済に加入して下さい。

- \* 特にアルバイト・使用人等雇用労働者がいる事業主は必ず労災保険に加入して下さい。
- 万一の時治療費は全額支払われますし、休業補償等も支払われます。
- それ以上に相手に対し変な気を使わずに治療に専念してもらえます。

# プレゼント付きクロスワードパズル



A	B	C	D	E	F

2月号の答えは「チョコレート」でした。当選者は下記の方々です。

湧別町南兵村三区 武藤 秀子さん  
 湧別町南兵村三区 片岡 チヤさん  
 遠軽町白滝北支湧別 古関ひとみさん

## ～応募方法～

応募用紙に答え・住所・氏名を明記し、身近な話題・変わった出来事等を書き添えてFAXにてご応募下さい。正解者の中から抽選で毎月3名の方に、粗品をプレゼント致します。

締め切り 3月25日(水)

### ヨコのカギ

- 1 ひな人形に供える角張った食べ物
- 2 守備の反対語
- 3 サンとゴの間
- 4 兵庫県の郷土料理。地元では卵焼きとも呼ばれます
- 5 A、B、C……と数えて11番目
- 7 走ると切れることも
- 9 京の着倒れ、大阪の——
- 11 白井義男は日本人初のボクシング世界——です
- 12 骨と骨をつなぎます
- 13 白米を量るときに使う単位の一つ
- 14 父や母の姉妹です
- 15 ——して得取れ

### タテのカギ

- 1 成長すると鶏になります
- 3 太陽が東から昇る時分
- 6 車の方向指示器のこと
- 8 事故などを現場に居合わせて直接見ること
- 10 工業——。——社会。——政党
- 11 地震、雷、火事、——
- 13 真ちゅうやステンレス、はんだなどのこと
- 14 雑巾を用意して年度末の——をした
- 16 版画を刷るときに使います
- 17 旧暦3月の異称です

## 読者の声

後期高齢者の2人です。主人は火曜日と木曜日に友愛園のデイサービスに参加させてもらっています。ただ、普段家の中ではテレビを見ながら眠っているかの状態で、先が思いやられます。少しでも多くの人と接して話し合い、笑い合える時はとても大事な事だと思います。

高齢者の皆さん、お互い少しでも前向きに楽しく生きましようね!!

(匿名)

外に出て人と出会い、談笑できることはとても貴重な事だと思います。これから暖かい日が続くと思いますので、有意義な時間をお過ごしください。

新型コロナウイルスのおかげで、2月の連休に予定していた旅行がパーになりました……。早く終息して欲しいです。

(匿名)

2月に入ってから、新型コロナウイルスが猛威をふるっています。インフルエンザも未だ流行っており、ですので、各自ご留意願います。

先日、久しぶりにしげれました。子供達や主人の妹さん仲間の奥さん、手伝ってもらってアスパラのハウスのビニールを降ろしました。皆に助けてもらってありがたかったです。

(匿名)

豊穣の秋を目指し、少しずつ農作業が始まっています。今年も作業中の事故にご注意下さい。

## 出会い、暮らし、思い出。そして、別れ……。

人生最後の葬祭の儀式。

それは故人の哀悼の念を捧げる厳粛な場ではなくてはなりません。

えんがる斎場は、突然に訪れた予告のない儀式をつつがなく執り行うため、悲しみに暮れるご遺族に、最良の方法と、こまやかな心くばりでご奉仕いたします。

個人葬をはじめ、多くのご会葬の方々をお迎えする大規模な社葬、団体葬など、宗教・宗派を問わず、最新の設備で、葬祭に関するすべてのことをお手伝いさせていただきます。



〒099-0401 北海道紋別郡遠軽町学田2丁目6番地1

TEL (0158) 42-9898

FAX (0158) 42-9933

# 春の農事部懇談会開催について

例年実施しております春季農事部懇談会を下記の日程により開催いたします。

日程上、都合の悪い場合は、本所営農課もしくは各支所までご連絡お願いいたします。



## 【春季農事部懇談会日程】

	午前 10:00~12:00	午後 13:30~15:30
3月30日(月)	屯市・5の2・5の3 JA本所会議室	4の3・5の1 JA本所会議室
3月31日(火)	4の1・4の2 JA本所会議室	富美・上富美 富美住民センター
4月 1日(水)	開盛・札富美・旭 JA本所会議室	遠軽・学田・清川 社名淵・瀬戸瀬第1,2 JA遠軽支所会議室
4月 2日(木)	安国・生田原・清里 JA生田原支所会議室	丸瀬布・白滝(※) 白滝国際交流センター コピエ

※丸瀬布・白滝地区の懇談会につきましては、13:45~となります。



第234号パンデミック症候群

いもたま作造くん

